

在宅医療拡充に係るこれまでの取組みとその成果

(1) 地域在宅医療等推進事業(県補助金H25～H28)

【鶴岡地区】

実施団体名	25年度事業内容	成果	26年度事業内容	成果	27年度事業内容	成果	28年度事業内容	成果
①一般社団法人 鶴岡地区医師会 (地域医療連携室「ほたる」)	<ul style="list-style-type: none"> 市民公開講座の開催 「ほたる便り」年2回発行 行政・歯科医師会・薬剤師会と定例ミーティング開催 医療・介護の意見交換会を開催(2回) 各種出張講座の開催 「ほたる多職種研修会」を開催(3回) 介護施設の訪問調査を行い多職種連携に係る課題抽出 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療資源マップの情報更新により、最新の情報を提供できた。 多職種研修会の開催により、多職種のスキルアップにつながった。 市民公開講座やリーフレット等による周知により、地域住民への在宅医療の普及啓発ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 25年度の継続 +医師の連携体制構築の検討 +住民向け在宅医療啓発リーフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療資源マップの情報更新により、最新の情報を提供できた。 多職種研修会の開催により、多職種のスキルアップにつながった。 24時間対応の在宅医療提供体制における情報収集等を行い、今後のバックアップ体制の構築の検討につなげた。 市民公開講座やリーフレット等による周知により、地域住民への在宅医療の普及啓発ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 26年度の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療資源マップの情報更新により、最新の情報を提供できた。 医療依存度の高い方の施設受け入れ情報の更新により、最新の情報を提供できた。 多職種研修会の開催により、多職種のスキルアップにつながった。 24時間対応の在宅医療提供体制における検討等を行い、今後のバックアップ体制の構築につなげた。 市民公開講座やリーフレット等による周知により、地域住民への在宅医療の普及啓発ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 27年度の継続 	—
②鶴岡地区薬剤師会	(2) 地域在宅医療提供体制構築支援事業として実施		<ul style="list-style-type: none"> 多職種との意見交換会開催 他職種講師の在宅研修会 薬局の在宅マップ(パンフレット)作成 	<p>平成27年3月に薬剤師会で実施した薬局訪問実態調査では、地域全体で13薬局が訪問指導を行っており、76名の患者に約1,300回の訪問指導を実施していた。訪問の依頼者は、医師53名・ケアマネジャー18名・その他5名。(集計期間:26年4月から27年2月)</p> <p>ケアマネジャーからの相談による在宅訪問介入という流れは、数年前まで皆無だったことを考えると、当事業の25年度からの活動成果が出始めていると評価できる。2025年に向けて鶴岡の地域包括ケア体制における薬局・薬剤師の地域貢献を質・量(範囲)ともに向上できるよう、活動を継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26年度作成したパンフレットによる在宅訪問服薬指導啓発活動 多職種との意見交換会 他職種講師による在宅医療・多職種連携の研修会 	<p>在宅訪問実績については、平成26年の前回調査と比較し、総患者数(76→100)・対応薬局数(12→16)が増加した。</p> <p>一方で、総訪問回数(約1,300回)は、昨年度と横ばいになった。</p> <p>これは地域薬局の薬剤師が在宅訪問に配分できるマンパワーが限られている事も考えられる。</p> <p>今後は調剤報酬定など外的促進要因が予測され、在宅医療への相対的なマンパワー増加が予測できる。その中で、当会は地域の多職種・行政・住民との連携関係・相互理解強化と、薬剤師会会員の質向上支援を目的とした活動を継続発展させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多職種との意見交換会開催 在宅医療における薬剤師の理解向上を目的としたパンフレット作成 	—
③南庄内栄養と食を考える会	<ul style="list-style-type: none"> 食形態冊子作成に向けた意見交換会の開催 	<p>地域の栄養・食に関する問題点をアンケート実施で把握した結果、短時間で簡単に出来るソフト食の調理方法や栄養食形態の確認や嚥下状態にあった食事方法を知らない等の様々な課題とニーズを把握した。又、研修会では具体的に何故安全な食事形態が必要なのか理解でき今後の業務に役立てたいとの声が多かった。</p> <p>今後、対象者のQOLを高める効果が期待される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「食形態検討委員会」を組織し、食形態冊子の検討・作成 	<p>管理栄養士・言語聴覚士・調理師という職種の「南庄内栄養と食を考える会」に、医師・歯科医師・認定看護師という専門職を加えた多職種で「食形態」について検討し、一つのパンフレットを作成していくプロセスは、互いの職種の専門性への理解も深まり、非常に意義深かった。</p> <p>今後も継続した連携を図りつつ、今回作成したパンフレットを活用し、「食」を通して患者と関わる職種の理解度を上げ、患者のQOL向上につなげていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26年度作成した食形態冊子を用いた多職種向け研修会 食形態の情報共有に向けた「食形態検討委員会」の開催(随時) →出された意見を参考にして冊子を改訂 	<p>多職種が連携することにより、専門性が更に深くなり口腔機能・嚥下機能に応じた適切な食形態を共有していくことで低栄養・誤嚥性肺炎等の予防・再入院防止や疾病改善に繋がる「食」支援ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度作成した「ソフト食基本レシピ・食形態パンフレット」を活用した研修会の開催 多職種チームでの患者訪問による在宅・施設等での「食支援」の実施 アンケートによる地域ニーズの拾い出し 	—
④一般社団法人 鶴岡地区歯科医師会	<ul style="list-style-type: none"> 「がんの栄養管理」と題した研修会開催 (「庄内地区在宅歯科診療ネットワーク協議会」が別途補助金活用して実施) 		<ul style="list-style-type: none"> 咽喉頭モデル(模型)の購入 モデル活用法研修会の開催 医科歯科連携・訪問歯科診療啓発ポスター作成 	<ul style="list-style-type: none"> 咽喉頭透明モデルの活用により、解剖学的に分かりづらい部分を理解することができた。また、一般市民にも関心を持ってもらうことができた。研修会では、咽喉頭透明モデル制作開発者と関係が近い方からの講演により、使用方法等を詳細に聞くことができた。なお、摂食嚥下について各自、自学が可能になるくらいまでの基礎知識を教えていただき、大変有意義な研修会になった。 「医科歯科連携・在宅訪問歯科診療」の周知媒体によって、在宅でも歯科診療を受けられるということ、医科と歯科との連携であること、また、食べることの意義を伝え、少しでも良い状態であってほしいという意を込めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種参加による在宅訪問歯科診療講演会の開催 歯科医師向けの地域ケア会議説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種参加型研修会では、講師より新宿区食支援研究会について触れながら、食支援の実際をお話していただいた。また、参加した多職種にも関心を持ってもらうことができた。なお、今後当地区ではどのように食支援をおこなっていけばよいか等の参考知識を教えていただき、大変有意義な研修会になった。 歯科医師向けの地域ケア会議説明会及び研修会では、演者から講義、助言専門職として参加した方々から感想や報告を聞くことで地域ケア会議について周知をはかることができた。地域ケア会議へ推選される歯科衛生士の資質向上と人材育成の効果が期待できる会となった。 平成26年度実施「医療連携をもとにした当地区における訪問歯科診療及び周術期がん患者口腔ケアに関する調査」の結果を集計し当地区の現状や情報を把握、考察をおこない口演した。他地区の有識者より様々な意見をいただき、今後の事業運営に反映することとした。 また、その調査結果については報告書(200部)を作成した。作成後、各種会合にて口演関係資料として配布した。現状を把握し、情報共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種を対象とした、経口での食事摂取により栄養管理上の効果についての講演会 在宅医療・介護現場での肺炎等呼吸器感染症予防対策についての講演会 	—
⑤山形摂食嚥下研究会					<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害シンポジウムの開催 在宅での嚥下障害に必要な実技講習(シンポジウムと同時開催) 在宅での嚥下障害対応ハンドブックの作成 	<p>実技演習と地域嚥下障害治療の第一人者、戸原玄准教授の講演会を行うことにより、地域の摂食嚥下障害治療の質の向上と理解が促進された。シンポジウムを行うことにより、庄内地区の摂食嚥下障害治療の現状と問題点が明らかになり、それぞれの職種が課題を見つけることができた。また嚥下障害治療ハンドブックを配布し、参加者に作成した趣意と使用方法を説明した。今後もこうした活動を庄内地区のみならず、山形県全域に広げていく予定である。</p>	(介護分野は補助対象外)	
⑥庄内南部地域連携パス推進協議会					<ul style="list-style-type: none"> 地域連携パスに「患者用パス」ツールを追加作成 	<p>医療者中心の地域連携パス(特に脳卒中地域連携パス)に「患者用パス」を加えることにより、介護系職種も関わりを持ち、疾病により在宅での療養生活を送れる患者を地域全体で支援する一つのツールが完成し、介護職の方々も巻き込んで活用し地域全体で患者を支える仕組みが強化される。</p>	(地域医療連携推進事業(医療連携ネットワークシステム推進事業費補助金(本庁))で対応)	—

⑦鶴岡市(長寿介護課)					<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防手帳の作成とそのための関係者会議 ・認知症の人に関わる専門職対象の認知症研修(医師・医療従事者・介護職) ・認知症サポート医研修への派遣 ・認知症初期集中支援チームの専門職向け研修 	<p>1. かかりつけ医や、医療従事者、介護支援専門員等介護従事者が認知症に対する正しい知識や、ケアの方法を学ぶことで、認知症の人やその家族が適切な支援を受け在宅医療の継続に資することができた。</p> <p>2. つるおかオレンジ手帳の作成を通し、認知症の人や家族、主治医、薬剤師、認知症ケアに係る介護等サービス事業者、ケアマネージャーなど多職種の情報の共有化を図り協働支援体制につなげることができた。</p> <p>3. つるおかオレンジ手帳の活用により、認知症の人と家族を中心に据え、医療福祉関係者の状況の共有並びに連携支援を図ることが期待できる。</p> <p>4. 認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、効果的な対応を図ることができた。</p> <p>専門医療機関を含めたチームを設定することにより、個別事例をおとしてかかりつけ医のより適切な認知症治療に寄与することが期待できた。</p> <p>また、専門医療機関、かかりつけ医、介護支援専門員、サービス提供事業者、地域包括支援センターの多職種による連携支援体制の構築が図れる。</p> <p>5. 認知症対応力向上研修の講師に前橋市認知症初期集中支援チームのリーダーを迎えたこともあり、現地研修に参加することにより、具体的な運営方法を直接学ぶ機会を得たことで効果的運営につながった。</p>	(介護分野は補助対象外)	
⑧三川町(健康福祉課)					<ul style="list-style-type: none"> ・町内医療者・介護関係者向け認知症対応力向上研修会 ・認知症サポート医の養成 	<p>認知症の方が在宅で生活できるような体制作りに向けて、多職種の関係者が合同で研修、事例検討することで、連携の拡大や、共通認識を深めることができた。</p>	(介護分野は補助対象外)	
⑨庄内医療生活協同組合 鶴岡協立 リハビリテーション病院							<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下外来診察の申し込み手順や情報提供の案内作成(医療介護者向け・一般向け) ・嚥下障害治療を行う際の指導パンフレット・DVD作り(食事指導・姿勢) ・嚥下障害予防関連パンフレット・DVD作り 	—
⑩がん患者の口腔機能管理を目的とした医科歯科連携推進委員会(荘内病院)							<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歯科医と病院の連携がうまくいっている他地域の医師、歯科医師による講演会開催 	—

【酒田地区】

実施団体名	25年度事業内容	成果	26年度事業内容	成果	27年度事業内容	成果	28年度事業内容	成果
①庄内地域医療連携の会	・東北公益文科大学(担当:鎌田准教授)との打合せを経て、学生に対して 特別講座を開講	1～3年の13名が受講し3つのグループで企画立案してもらった。私たちの分野では思いつかないような視点で、地区運動会での「家族で介護運動会」、高校生のインターンシップを利用した「教活インターンシップ」、介護や家族の事について考えるきっかけとして介護食調理実習「Care クッキング」の3つが立案された。また、受講学生のテーマに対する今の考えや思いを知るきっかけにもなった。立案された企画の実施は、引き続きのブラッシュアップ後を予定している。学生からは、どんな死を迎えたいかではなく、どんな生き方をしようとするようになった、年をとっても健康でいたい、老いを幅広い視点で考えられるようになったなど、受講した学生自身が、「老い」「最期の過ごし方」についてグループメンバー同士で調べ、考え、まとめたことで講座自体が若い世代への市民啓発になったと感じる。また、中間報告会には庄内地域の行政、医療、福祉分野から医師、看護師、社会福祉士などの多職種の方に学生の報告を聞いていただく事が出来た。参加者は学生が考えたアプローチ対象や方法について聞き、現場の意見やアドバイスを聞いた。開催後のアンケート調査では、学生への大きな期待が感じられた。医療福祉の現場だけで解決するのではなく、在宅医療の推進には、市民と共に考え生活できる土壌をつくる意識の種になった。	公益大生と共に、市民に「老い方」「最期の過ごし方」を考えてもらえるような企画を立案し、実践する。 ・学生への講義、先進地視察 ・「介護食」をテーマとした婚活イベントの実施 ・「市民啓発」に「多職種連携」の視点を加え、様々な職種を目指す他大学等の学生とのネットワーク立上げと、ミーティングを実施	魚沼学校視察や医療介護職員等の講義により、市民理解の必要性・そのための啓発の重要性を理解した。それを踏まえての企画実践により、これまで「介護」に無関心と思われる層に啓発する機会を得た。また、企画の開催チラシに記載したメッセージや案内を通して、無関心な層への啓発を進めることができた。また学生たちは、医療介護職員とのグループディスカッション等を通して、社会に出てからの多職種連携の重要性に気づき、学生のうちから医療福祉以外の学生との人脈作りを始めた。このことにより、医療福祉以外の分野を学ぶ学生が医療福祉、高齢社会を意識し、自分の分野と結びつける取組・アイデアを考えるきっかけとなっている。学生は卒業後、地域で活躍する市民でもあることから市民啓発の視点としても効果が出ている。	・25年度・26年度の継続 ・病院連携担当者等を対象とした医療・介護連携担当者スキルアップ研修会開催	学生が地域医療や在宅医療の問題を自分事と認識し、独自に医療・福祉系学生、法学部・工学部などの異分野の学生を巻き込んだ学生による大学・多職種連携グループを立ち上げ、ワークショップを2回、自治体や新聞社主催の健康フェアへの市民対象の体験プログラム(エンディングプラン作成ソフト・医療介護すごろくの作成)のブース展示を2回実施した。また、地域の医療介護従事者は学生と共に先進的事例の講演及び庄内地域の医療・介護の現場で今起きている問題についてのディスカッションにより病院連携担当者としての地域包括ケアシステムへの関わり方を再確認し業務に活かしている。	【東北公益文科大学に引継】 ・「やまがた多職種連携学生ネットワーク」における年2回程度の学生ミーティング(社会連携に取り組んでいる先進地から招いた講師による講演含む)の開催 ・当該ミーティングにおける、グループワークを通じた、地域包括ケア構築に向けた市民啓発策のアイデア出し	
②酒田市(介護保険課)、酒田地区医師会 ※平成26年度、酒田地区医師会が医療介護連携拠点「酒田市在宅医療・介護連携支援室ポنテ」を設置(地域医療介護総合確保基金)。 平成27年度と同センター事業は、地域支援事業で運営経費を措置して医師会に委託料として支出し、在宅医療推進事業費補助金(地域医療再生基金)で事業経費を県からの補助金として措置する。 ⇒平成27年度は、酒田市と医師会がそれぞれ実施団体(補助金交付団体)となった。			・ケアマネ医療サポート研修会の開催 ・医療・介護の合同研修会の開催 ・医療介護連携の情報交換会の開催 ・在宅ケア推進講演会	医療と介護の顔の見える関係の継続 多職種がチームとして機能できる人材育成 ・医療と介護の合同研修会実施時のアンケートでは、参加者の8割以上が研修内容が業務の参考になったと回答しており、他分野の職員と事例のグループワークを通してお互いの職域や専門性の理解につながったという意見が多かった。また、以前に比べて医療と介護の連携は取りやすくなったと5割以上の方が回答した反面、課題も残っているとの意見であった。 ・経年的に事業実施する中で、多職種へのネットワークが広がり、特に研修では医師の参加が増加している印象がある。継続した研修等、連携体制づくりにつながる場の提供をしていくことが、北庄内の医療と介護の連携体制作りに寄与するものとする。	②-1 【酒田市】 ・地域内医療・介護サービス資源の把握 ・医療・介護多職種合同研修会の開催 ・在宅ケア市民講演会の開催 ②-2 【酒田地区医師会十全堂(酒田市在宅医療・介護連携支援室「ポンテ」)】 ・医療・介護サービス基本情報のHP作成 ・定期的な多職種会議の開催 ・ショートステイ空き情報公開HP作成 ・在宅医療・介護連携相談窓口機能 ・ケアマネージャー向け医療サポート研修会	医療と介護の顔の見える関係の継続 多職種がチームとして機能できる人材育成 ・医療と介護の合同研修会実施時のアンケートでは、参加者の9割弱が研修内容が業務の参考になったと回答しており、医療・介護はもちろん、それ以外の分野の職員と事例のグループワーク等を通して、お互いの職域や専門性の理解につながったという意見が多かった。また、以前に比べて医療と介護の連携は取りやすくなったと6割以上の方が回答しているが、そのうちの半数以上で課題も残っているとの意見であった。 ・経年的に事業実施する中で、多職種へのネットワークが広がり、医療・介護だけでなくさまざまな職種とも連携が求められている。そのため、今後も継続した研修等、連携体制づくりにつながる場の提供をしていくことが、北庄内の医療と介護の連携体制作りに寄与するものとする。	(介護分野は補助対象外)	
③庄内高齢者ケア学会 実行委員会	・実行委員会の開催		・ケア学会実行委員会の開催 ・住民・専門職向けの講演会の開催	地域の福祉・医療・保健関係者の協力により、運営・実施までの過程を通して顔の見える関係が構築された。 多くの来場者からは、ユーモアもありつつ真剣に老いや最期を考える良い機会になったとの声も多数聞かれ、市民はもちろん運営側にとっても貴重な経験となった。	・26年度の継続	地域の福祉・医療・保健関係者の協力のもと、運営・実施を通じ、顔の見える関係が構築された。 来場者からは、日本の社会保障の現状が再確認できた、とても参考になった等の声が聞かれた。	(介護分野は補助対象外)	
④訪問看護ステーション連絡会「しようない」	・主にケアマネへの啓発目的とした広報誌作成 ・スキルアップ研修会&交流会の開催	・広報「すまいる」特別号:庄内地区のケアマネージャーにも読んでいただき、理解を深めていただくと考えられる。 ・講演会、交流会:酒田での開催となったが、鶴岡市や庄内町からも多く参加していただいた。スキルアップへの意欲の高さがうかがえる。	・スキルアップ研修会の開催 ・事例検討会&交流会の開催 ・住民向けリーフレット・ポスター作成	ポスター・リーフレットを作成し、活用したことにより、庄内の訪問看護について知っていたことが出来たと思われる。褥瘡研修会では栄養改善や褥瘡評価の大切さについて学び、知識を深めることが出来た。症例検討会と交流会では、困難事例を検討し、多職種協働が大切だということを共通認識することが出来た。	・スキルアップ研修会(ELNEC-J)の開催 ・住民の訪問看護への理解促進用パンフレット・ポスターの作成	ELENEC-J研修では終末期ケアを提供する看護師に必要な知識を系統的・包括的に学ぶことができた。訪問看護師並びに医療機関や福祉施設に勤務する看護師が共に学び合う機会となり地域包括ケアシステムに結び付く内容となった。ポスター・リーフレットは今年度加入した事業所情報も追加し、地域の医療機関・居宅事業所等へ配布する事で訪問看護をPRするツールとして活用できた。	・スキルアップ研修会(ELNEC-J)の開催 ・住民の訪問看護への理解促進用リーフレットの作成	
⑤北庄内在宅医療体制検討会(事務局:庄内保健所)	・資源マップの作成	関係市町と調整して、北庄内在宅医療地域資源マップを作成し、管内関係機関に配布した。						

<p>⑥一般社団法人 山形県作業療法士会</p>	<p>庄内地域での取組み無し ※山形県在宅医療推進 モデル事業を活用し、 三川町において 住民向け出前講座を 開催</p>		<p>・包括支援センター・ 老人クラブなどにチラシを 配布し、依頼に応じて 出前講座を開催 ・検討会議を開催</p>	<p>①地域住民を対象に出前講座を実施したこと で、住民の認知症に対する理解が深まり、早期 対応や早期受診、認知症の方への余裕を持っ た対応が促されたと考える。また、認知症予防 について啓発することにより、住民自身の取組 みの促進につながった。 ②出前講座のテキスト・プレゼンテーション資料 作成、連絡会議等を通じて、庄内地区会員（作 業療法士）の、本事業への協力体制の構築、 認知症支援に対する対応力向上につながった。</p>	<p>・要請に応じた認知症出前 講座の開催 ・出前講座講師養成のため の研修会開催</p>	<p>①地域住民や医療・福祉施設職員を対象に出前講座 を開催した。アンケートでは90%以上の方から、参考にな った、満足したと回答いただいた。とても分かりやす く良かった、心が軽くなった、身近な人への対応が反 省もありとても良かった、今後の利用者への関わりに 活かしていけそう、若い人たちにも教えてほしい、等の 具体的意見を多数いただいた。 出前講座に合わせて、参加者パンフレットの改訂も 行った。 これらの取組みが医療・福祉関係者の認知症支援に 関する対応力向上、住民の認知症に対する理解が深 まり、住民自身の取組みの促進につながったと考 える。 ②出前講座の見学やメール配信を通して、庄内地区 会員（作業療法士）の、本事業への協力体制の構築、 認知症支援に対する対応力向上につながった。</p>	<p>(介護分野は補助対象外)</p>
<p>⑦酒田地区歯科医師会 在宅歯科支援室</p>	<p>庄内地域での取組み無し ※山形県在宅医療推進 モデル事業を活用し、 県歯科医師会・ 県歯科衛生士会が 歯科衛生士の訪問診療 への同行事業を実施</p>		<p>・訪問診療への歯科衛生士 の同行 ・多職種による連携委員会の 開催 ・歯科医対象の研修会の 開催</p>	<p>*同行訪問によって訪問歯科診療に繋げる事 例はなかったものの、訪問先のご家族には、今 後不具合が生じたり、相談事がある際には、訪 問歯科診療窓口への連絡をしていただくよう伝 えることにより、今後につながる関係づくりには なった。 *事例を検討し。専門的口腔ケアの介入の必 要性が示唆された。 *栄養士との円滑な連携体制がとれるようにな った。 *連携委員会で動向事例を題材にして、今後 の連携体制について活発な意見交換がなされ た。</p>	<p>・26年度の継続 +ケアマネージャーに対する 研修会</p>	<p>*同行訪問によって訪問歯科診療1件繋がった。 *高齢者ケア学会や医師会主治医研修会へ参加し、 歯科介入の意義や訪問歯科診療の現状を周知するこ とができた。 *栄養士との円滑な連携体制がとれるようになった。 *会員向けの研修会(摂食嚥下障害への対応)を継 続的に開催することで、摂食嚥下障害についての理 解を深めることができた。 *他職種向けの研修会では、先進事例を通じて、在 宅医療において、口から食べることへの支援の中で、 歯科の介入に対する位置付けを明確にし、他職種の 連携を図ることにより、要介護高齢者のQOLの向上に 繋がることを共通認識できた。 *連携委員会で、意見交換や研修を行ってきた結 果、他職種の方々の口腔への関心が高まってきた。</p>	<p>・27年度の継続 +訪問歯科周知活動 +訪問歯科先進事例の 視察見学</p>
<p>⑧公益社団法人 山形県栄養士会</p>			<p>・訪問診療への管理栄養士 の同行 ・同行訪問チラシ作成 ・栄養管理普及啓発用 ツール(冊子等)購入</p>	<p>1. 医師、看護師、歯科衛生士と連携のもとに 訪問指導を実施することで、対象者の身体状 況や摂食嚥下状況を的確に把握することができ 、適切な食事指導をすることができたこと。 このことにより、対象者の低栄養予防や食の改 善及び生活の質の向上につなげることが期待 できた。 2. 家族が食事について悩んでいることに、適 切なアドバイスをすることができ、また、対象者 に見合った栄養補助食品等で栄養素の確保を することで不足を予防し、食の改善を図ることが できる。</p>	<p>・訪問診療への管理栄養士 の同行 ・ケース検討会議の開催 ・指導マニュアル作成</p>	<p>平成26年度の実績を踏まえ、疾病や低栄養状態にあ る在宅高齢者に対する在宅訪問栄養指導に取り組 み、2件のアセスメントを実施。件数は少なかったが、 それぞれのケースの健康課題を探りながらよりの確な アドバイスを行うことができ、低栄養の改善や疾病の重 症化予防への意欲を引き出すことができた。 歯科医師及び歯科衛生士等との連携を深めることが でき、さらに在宅高齢者や家族の方の在宅訪問指導 に関する認知度を高めることで、一層の効果が期待で きるのではと思われる。</p>	<p>・訪問診療への管理栄養士 の同行 ・ケース検討会議の開催 ・指導マニュアル作成</p>
<p>⑨医療法人山容会 山容病院</p>					<p>・認知症の人の家族対象 研修会の開催</p>	<p>在宅で生活する認知症の人を支える家族の存在を重 要視し、介護者である家族の成長を支えるという視点 で家族を支援することが出来た。また、認知症を診る 医療機関を身近に感じてもらい、受診の垣根を下げる 効果があった。</p>	<p>・訪問看護ステーションに BPSD対応に関する 具体的な援助方法に ついての学習や助言</p>
<p>⑩庄内町(保健福祉課)</p>					<p>・多職種連携についての 医療・介護関係者向け研修 ・地域住民向け看取り・ 在宅医療公開講座 ・在宅医療に係る先進地視察</p>	<p>在宅医療や介護職が多職種で、研修やグループワ ークを行い課題の抽出をすることで、課題についての相 互理解や連携の必要性について共通認識することが できた。</p>	<p>(介護分野は補助対象外)</p>
<p>⑪遊佐町(健康福祉課)</p>					<p>・市民向け在宅医療・介護 講座の開催 ・認知症啓発映画上映会の 開催</p>	<p>○食べることは「生きる」ことの原点であることや、高齢 者の食事に関する変化について専門職である管理栄 養士に講話いただくことで、高齢者の栄養改善に関 する支援ができた。講座には、1人暮らし男性高齢者 や高齢者夫婦などが参加、調理実習と試食会は交流 の場ともなり、介護者のリフレッシュにもなった。 ○地域医療の視点からの介護支援については、講師 の介護体験談もあり、死の瞬間だけが看取りだけでは なく、終末期にある本人の意思と権利を尊重し、尊厳 を保つとともに安らかな死を迎えるための一連のプロ セスであること、残された者への宝物・贈り物であるこ となど、参加者が思いを共有し、温かい気持ちになれ た。 ○介護仲間が語り合うことで思いを共有できることも多 く、より安心した在宅療養を過ごせるように、今後も 様々な視点から在宅療養者への支援を行っていきた い。 ○住民への啓発:アンケートより「誰もが通る道」「認知 症の方も人生があり、今日があり」。認知症の方の終 焉もほかの人の終焉と全く同じ」などの意見をいただ く、映画を通じ、認知症への理解が深まり、地域で受 け入れていく体制への一歩となった。 ○連携強化:「在宅医療連絡会」を開催することで、在 宅医療・介護連携の課題等について協議、顔の見え る関係づくりの構築と今後の医療・介護連携体制を確 認できた。 ○病気になっても、要介護状態になっても、医療・介 護・行政・住民がみんな力で力を合わせて、住み慣れた 地域で安心して暮らせることのできる町づくりをしてい くことが大切であると共通認識できた。</p>	<p>(介護分野は補助対象外)</p>

(2)地域在宅医療提供体制構築支援事業(県補助金H25～H27)

【鶴岡地区】

実施団体名	25年度事業内容	成果	26年度事業内容	成果	27年度事業内容	成果	28年度事業内容	成果
①一般社団法人 鶴岡地区医師会 (地域医療連携室「ほたる」)	・「ほたる」HPでの各種情報の提供	(1)に含む	25年度の継続	(1)に含む	・25年度・26年度の継続	(1)に含む	(1)へ	
②鶴岡地区薬剤師会	・パンフレット作成 ・事例検討会・他職種講師の研修会開催	パンフレット作成・配布後、2つの居宅介護支援事業所から施設内勉強会の講師依頼をいただき、薬の問題がある個別事例へアドバイスを実施できました。今後も個別施設の勉強会講師を通じた、個別事例へのアドバイス・介入を進めます。 訪問指導の依頼を受ける薬局も徐々に増え、平成26年3月現在で市内15薬局が訪問指導の実績があります。(2008年時点では5薬局)	(1)へ					

【酒田地区】

実施団体名	25年度事業内容	成果	26年度事業内容	成果	27年度事業内容	成果	28年度事業内容	成果
①酒田地区医療情報ネットワーク協議会 (日本海総合病院・酒田地区医師会)	・「介護連携WG」の開催 ・PRパンフレット作成	・介護福祉施設との具体的な連携について検討を進めた。 ・介護福祉施設用の周知パンフレットを作成した。 ・平成26年4月より介護福祉施設から正式にちょうかいネットへの参加を開始する。 ・介護福祉施設への周知用として既存のリーフレットを増刷し利用者へ配布した。	・25年度の継続 ・先進地視察(尾道) ・施設対象の医療連携セミナー開催	・平成26年4月より正式に介護福祉施設との連携を開始した。 ・今年度中に30の介護福祉施設から新規参加申込があった。 ・介護福祉施設への周知用として既存のリーフレットを増刷し利用者へ配布した。	・25年度・26年度の継続 ・先進地視察 ・施設対象の医療・介護連携セミナー開催 ・酒田地区を会場として研究大会を開催	・平成26年4月より正式に介護福祉施設との連携を開始した。 ・今年度中に3の介護福祉施設から新たにちょうかいネットへ参加していただくことができた。 ・介護福祉施設への周知用として既存のリーフレットを増刷し利用者へ配布した。 ・介護家族への広報活動として、ちょうかいネットについて案内を掲載した、医療症ケースを作成した。	(地域医療連携推進事業(医療連携ネットワークシステム推進事業費補助金(本庁))で対応)	—
②庄内地域医療情報連携推進検討会 (酒田地区医療情報ネットワーク協議会) (鶴岡地区医療情報ネットワーク協議会)	・酒田地区を会場に研究大会を開催 (25年度は酒田地区医療情報ネットワーク協議会への補助事業を財源とする)		・鶴岡地区を会場として研究大会を開催 ※鶴岡地区ネットワーク協議会が事務局(補助金は事務局協議会に交付)	庄内地区の医療・介護関係者ほか一般住民120名(内一般住民10名)の参加者へ医療情報ネットワーク化と「つながる」ことの意義を提示できた。医療情報ネットワークへの理解を広め地域の医療と介護の連携体制の推進と質の向上をはかることができた。	①へ		(地域医療連携推進事業(医療連携ネットワークシステム推進事業費補助金(本庁))で対応)	—
③山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会 庄内地区ブロック会	・企画会議の開催		・事務局会議の開催 ・排泄ケア研修会を2回開催(全4回:講師山大学部看護学科 佐藤和佳子教授) ※参加対象にはグループホーム以外も含む	・認知症介護に関わるもの(介護保険事業所職員・家族・その他)が排泄のメカニズムや、より自立支援や自尊心を尊重した排泄ケアの知識や技術を学び獲得する事で、要介護者の生活の質が向上していく。	・26年度研修会の継続(全4回中、残りの2回) ・認知症ケア研修会の実施(鶴岡・酒田各1回) ・実践報告会	認知症高齢者の排泄ケアの事例を通して、排尿日量日誌を作成・分析したが、これにより、根拠あるアセスメント能力、ケアに向上につながった。研修に参加した者の7割は、排泄ケアの重要性や意識の変化を感じたと感想を述べている。これは、排尿日誌を付けることで色々な気づきや新たなケアへ発展した結果である。	(介護分野は補助対象外)	
④山形県介護支援専門員協会 庄内地区支部			・事務局会議の開催 ・ケアマネ対象研修会の開催(2回)	第1回研修会では、認知症ケアバスや認知症初期集中支援チームの役割・取り組みなど最新の情報を知る機会となり、また、認知症の基本的な理解・対応についても学ぶ機会にもなった。第2回研修会では、テーマを絞ったことにより、その内容を深く掘り下げることができ、アンケートも例年より満足度が高かった。テーマに沿った事例発表を設定し、且つ例年より事例数を減らし1つの発表に費やす時間を長く設定したことによって、事例について深く理解でき、とても勉強になったという意見も多かった。	・26年度の継続	第1部は介護支援専門員として必須である「アセスメント」について、定義や過程だけではなく、具体的な方法、視点なども含まれており、実践に活かせる研修となった。 第2部は、地域の介護支援専門員のボトムアップには主任介護支援専門員のスキル向上が必要であろうということで、主任介護支援専門員を対象としスーパーバイズについて改めて学ぶ機会を設けた。 作業療法士会で活動している「生活行為向上マネジメント」について、自立生活行為向上にむけ、生活を把握・理解し、支援することの大切さについて学ぶことができた。また、4事業所の事例発表を入れることで、た事業所の活動を知る良い機会になったと思う。	(介護分野は補助対象外)	

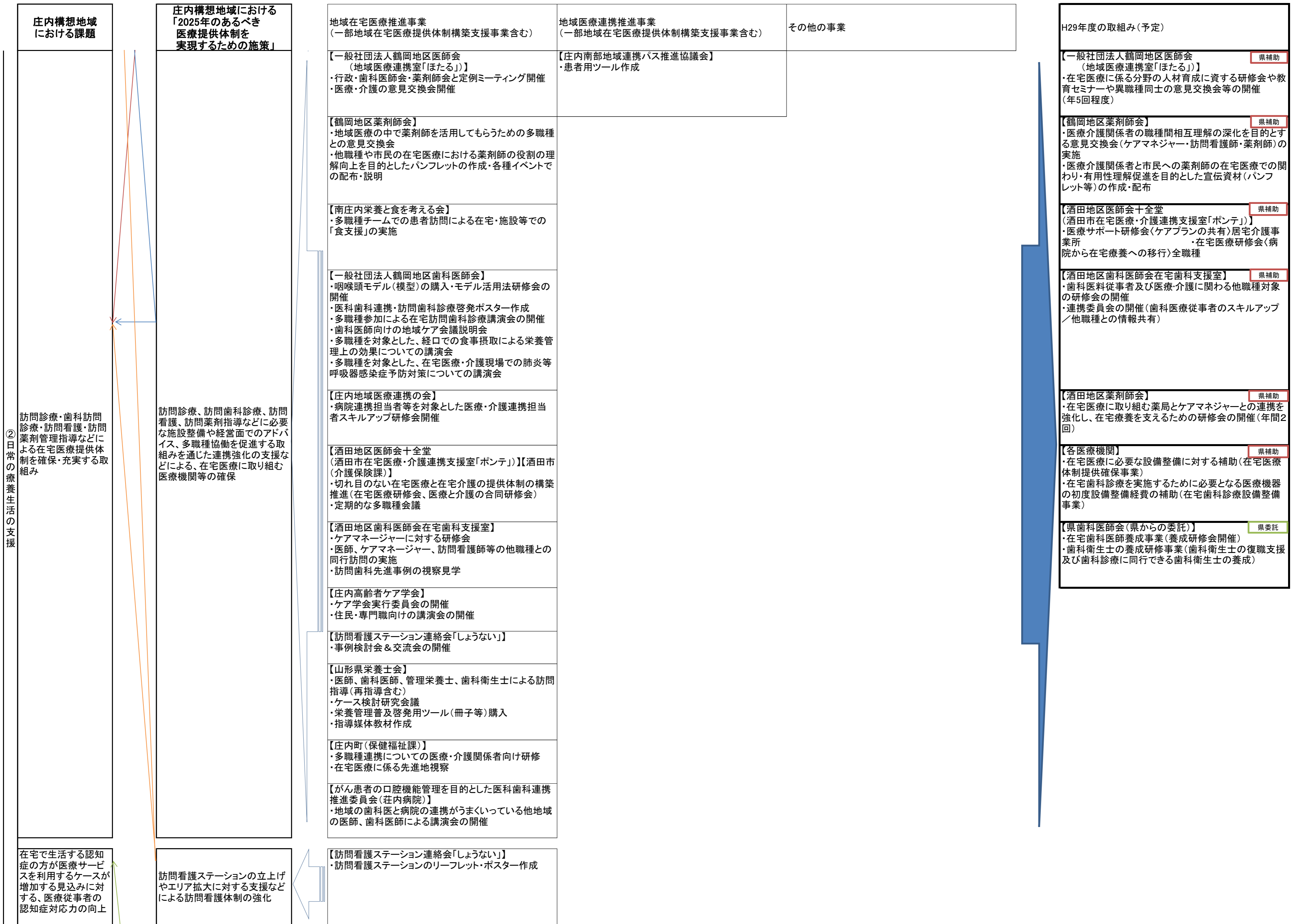
(3)在宅医療推進事業(県補助金H25～H28)

実施団体名	25年度事業内容	成果	26年度事業内容	成果	27年度事業内容	成果	28年度事業内容	成果
①北庄内在宅医療体制検討会 (事務局:庄内保健所)	・検討会の開催(2回) ※酒田市認知症ケアパス 作成委員会として位置付け	酒田市認知症ケアパス作成のための検討を行い、北庄内における在宅医療の推進に向けた課題抽出と意見交換により関係者の情報共有を図ることができた。	・コアメンバー会議の開催(1回) ○酒田市認知症ケアパス(医療機関編)の検討 ・検討会の開催(2回) ①酒田市認知症ケアパス(医療機関編)の検討 ②酒田市医療・介護連携支援室ポテンテの機能・役割の検討	酒田市認知症ケアパス(医療機関編)を作成につなげた。 酒田地区医師会が医療介護連携拠点「酒田市在宅医療・介護連携支援室ポテンテ」の設置につなげた。	※北庄内の各市町ごとに、多職種による連携会議の場が立ちあがることから、当初の役割は終了したと判断。 ⇒「在宅医療・介護連携担当者連絡調整会議」を立ち上げ、行政・医師会の連携担当者による情報共有・意見交換の場を設置する。			
②在宅医療・介護連携担当者連絡調整会議 (事務局:庄内保健所)					・各市町の在宅医療・介護連携担当者(主に介護保険担当課)、地区医師会の「はたる」(鶴岡)・「ポテンテ」(酒田)担当者、保健所(保健企画・地域保健福祉)担当者、包括支援センター担当者等をメンバーとする検討会を開催	地区医師会、各市町の在宅医療・介護連携担当者間の情報共有を図ることができた。	(在宅医療専門部会に対応)	
③看取り体制整備支援	・研修会の開催(2回) ※主に鶴岡市・三川町をエリアに、緩和ケア認定看護師による「エンド・オブ・ライフ・ケア」の基礎講座 +有料老人ホームでの看取り事例紹介	介護福祉施設職員を対象とした研修会を実施し、参加者アンケートの結果によると9割以上の方が役に立ったとのことだった。	・研修会の開催(1回) ※主に庄内町・遊佐町をエリアに、緩和ケア認定看護師による「エンド・オブ・ライフ・ケア」の基礎講座 +参加者同士の意見交換	介護福祉施設職員を対象とした研修会を実施し、参加者アンケートの結果によると9割以上の方が参考になったとのことだった。	・研修会の開催(2回程度) ※主に庄内町・遊佐町をエリアに、緩和ケア認定看護師による「エンド・オブ・ライフ・ケア」の実践講座 +参加者同士の事例検討	介護福祉施設職員を対象とした研修会を実施し、参加者アンケートの結果によると9割近くの方が参考になったとのことだった。		・研修会の開催(2回程度) ※主に庄内町・遊佐町をエリアに、緩和ケア認定看護師による「エンド・オブ・ライフ・ケア」の実践講座 +参加者同士の事例検討
④ケアマネジャースキルアップ研修会	・講演会・症例へのスーパーバイズ開催	介護支援専門員スキルアップ研修会を開催し、ケアマネジャーの資質向上を図ることができた。	⇒「山形県介護支援専門員協会庄内地区支部」が実施主体の補助事業に移行					

◎地域ネットワーク協議会運営関係(県補助金H25～H28)

実施団体名	25年度事業内容	成果	26年度事業内容	成果	27年度事業内容	成果	28年度事業内容	成果
①鶴岡地区医療情報ネットワーク協議会 (鶴岡市立荘内病院・鶴岡地区医師会)	・協議会・検討部会の開催 ・パンフレット・ポスター作成	—	26年度・27年度と継続実施 ★「全県ネットワーク構築」に向けた協議会運営として、県庁で別枠要求	—	26年度・27年度と継続実施 ★「全県ネットワーク構築」に向けた協議会運営として、県庁で別枠要求	—	(地域医療連携推進事業(医療連携ネットワークシステム推進事業費補助金(本庁))で対応)	—
②酒田地区医療情報ネットワーク協議会 (日本海総合病院・酒田地区医師会)	・協議会・検討部会の開催 ・パンフレット・ポスター作成	—	26年度・27年度と継続実施 ★「全県ネットワーク構築」に向けた協議会運営として、県庁で別枠要求	—	26年度・27年度と継続実施 ★「全県ネットワーク構築」に向けた協議会運営として、県庁で別枠要求	—	(地域医療連携推進事業(医療連携ネットワークシステム推進事業費補助金(本庁))で対応)	—
③庄内地域医療情報連携推進検討会 (事務局:庄内保健所)	・意見交換会の開催	鶴岡・酒田両地区医療情報ネットワーク協議会委員と事務局担当者の情報共有を図ることができた。	※両地区協議会事務局の担当者会議を3回開催し、両協議会による情報共有・意見交換の場が確保されていたため、医師を交えた検討会の必要性が低く、開催を見送った		※両協議会事務局による担当者会議は随時開催し、検討会は必要に応じて開催する。		※両協議会事務局による担当者会議は随時開催し、検討会は必要に応じて開催する。	
④鶴岡地区医療情報ネットワーク協議会 (鶴岡市立荘内病院・鶴岡地区医師会)	・スマホ用アプリケーション開発 (iPhone・Android対応用)	—						
⑤酒田地区医療情報ネットワーク協議会 (日本海総合病院・酒田地区医師会)			ちょうかいネットのシステム改修	—				
⑥庄内南部地域連携バス推進協議会					(1)に含む	(1)に含む	(地域医療連携推進事業(医療連携ネットワークシステム推進事業費補助金(本庁))で対応)	







庄内構想地域における課題	庄内構想地域における「2025年のあるべき医療提供体制を実現するための施策」	地域在宅医療推進事業 (一部地域在宅医療提供体制構築支援事業含む)	地域医療連携推進事業 (一部地域在宅医療提供体制構築支援事業含む)	その他の事業
<p>② 日常の療養生活の支援</p> <p>食生活に係るQOLの維持向上のための、口腔ケアの充実と、口腔・嚥下機能にあった食形態で食事ができるための支援</p>	<p>多職種チームによる口腔ケアと食支援を行うことができる体制の整備</p>	<p>【南庄内栄養と食を考える会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食形態検討委員会」を組織し、食形態冊子の検討・作成 ・食形態検討委員会で作成した「ソフト食基本レシピ・食形態パンフレット」を活用した研修会の開催 ・多職種チームでの患者訪問による在宅・施設等での「食支援」の実施 <p>【一般社団法人鶴岡地区歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種を対象とした、経口での食事摂取による栄養管理上の効果についての講演会 ・多職種を対象とした、在宅医療・介護現場での肺炎等呼吸器感染症予防対策についての講演会 <p>【山形摂食嚥下研究会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害シンポジウムの開催 ・在宅での嚥下障害に必要な実技講習 ・在宅での嚥下障害対応ハンドブックの作成 <p>【酒田地区歯科医師会在宅歯科支援室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師、ケアマネージャー、訪問看護師等の他職種との同行訪問の実施 <p>【山形県栄養士会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師、歯科医師、管理栄養士、歯科衛生士による訪問指導(再指導含む) ・ケース検討研究会議 ・指導媒体教材作成 <p>【庄内医療生活協同組合 鶴岡協立リハビリテーション病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下外来診察の申し込み手順や情報提供の案内作成(医療介護者向け、一般向け) ・嚥下障害治療を行う際の指導パンフレット・DVD作り(食事指導・姿勢) ・嚥下障害予防関連パンフレット・DVD作り <p>【がん患者の口腔機能管理を目的とした医科歯科連携推進委員会(庄内病院)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歯科医と病院の連携がうまくいっている他地域の医師、歯科医師による講演会の開催 		

H29年度の取組み(予定)
<p>【南庄内栄養と食を考える会】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔・嚥下機能に応じた食形態パンフレットを活用した研修会・多職種チームでの在宅・施設等での食支援の実施
<p>【一般社団法人鶴岡地区歯科医師会】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の経口摂取による栄養管理上の効果についての講師の講演及び実習
<p>【庄内医療生活協同組合 鶴岡協立リハビリテーション病院】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下障害治療に係る人材育成のための研修会等
<p>【酒田地区歯科医師会在宅歯科支援室】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士や管理栄養士と他職種との同行訪問アセスメントの実施 ・訪問歯科診療前のアセスメントの実施

<p>③ 急変時の対応</p> <p>在宅療養支援を行う在宅療養後方支援病院がなく、地域包括ケア病棟・病床をもつ病院も不足</p>	<p>急変時の受け入れ態勢や後方支援機能を強化する取組みへの支援による、24時間365日対応できる在宅医療提供体制の強化</p>	<p>【一般社団法人鶴岡地区医師会(地域医療連携室「ほたる」)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の連携体制構築の検討 <p>【酒田地区医師会十全堂(酒田市在宅医療・介護連携支援室「ポンテ」)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護連携相談窓口機能 ・切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進(在宅医療研修会、医療と介護の合同研修会)
<p>急変時や看取りに係る当番医制度体制の充実に向けた登録医の増加</p>	<p>在宅医療・介護連携拠点を中心とした、当番医制度への登録医の増加を図るための取組みの検討の支援</p>	<p>【一般社団法人鶴岡地区医師会(地域医療連携室「ほたる」)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の連携体制構築の検討 <p>【酒田地区医師会十全堂(酒田市在宅医療・介護連携支援室「ポンテ」)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進(在宅医療研修会、医療と介護の合同研修会)

<p>【一般社団法人鶴岡地区医師会(地域医療連携室「ほたる」)】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に係る分野の人材育成に資する研修会や教育セミナーや異職種同士の意見交換会等の開催(年5回程度)
<p>【酒田地区医師会十全堂(酒田市在宅医療・介護連携支援室「ポンテ」)】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療研修会(病院から在宅療養への移行)全職種
<p>【各医療機関】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に必要な設備整備に対する補助
<p>【一般社団法人鶴岡地区医師会(地域医療連携室「ほたる」)】 県補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療に係る分野の人材育成に資する研修会や教育セミナーや異職種同士の意見交換会等の開催(年5回程度)

